

総合リサイクルの糸井ホー

ルディングス（高崎市上大類

町）の糸井丈之社長が、ベンチャー起業家や若い人材を県内に定着させる取り組みに力を入れている。目指すのは「地域の経営者がエンジエル活動家やメンターとなつて起業家を育てる文化や仕組みづくり」

ビジネスコンテストの参加者などから有望株を見つけ、会社が成長した後も本社を群馬に置くことを条件に支援。



起業家育て定着に情熱

糸井ビル（同市緑町）には、動画制作の8hammer、バイオマス燃料開発のエムラボのスタートアップ2社が拠点を構え、資金支援や仕事の発注などを受けながら事業拡大を準備している。

このほか高崎経済大の学生の県内定着に向けた奨学金を昨年、大学と創設。初年度は7人が活用している。

「私の墓の前で孫やひ孫に『群馬には仕事がないから東京に行く』と言わせたくない。災害やコロナ禍で企業の視線が地方に向いている今、できることをやりたい」